園だより７月

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。
コリントの信徒への手紙Ⅱ4 章 18 節

園庭にプールが登場しました。お天気に左右されながらもプール遊びが始まりました。季節ならではの遊びが展開されていること嬉しく思います。

４月、５月、６月と園生活を楽しみながら子どもたちは心と体を動かし、それぞれに遊びを繰り広げています。その遊びを通して子どもたち同士の様々な心の交わりが見られるようになりました。これからに繋がる育みの過程、大切にしたいその時の様子に微笑ましさを感じつつ、しっかりと捉え寄り添い６月の日々も過ごして参りました。

ある日の様子です。年少組の A ちゃんと B くん、いつも仲良しの二人、その日も仲良く園庭に出てきました。A ちゃんの手には赤いバケツが。しばらくするとお互い眉毛を八の字にして見合っていました。そして突然 B くんが大声で泣き出したのです。A ちゃんは泣いている B くんをじっと見ています。B くんの泣きが治まらないので少し介入しました。聞き出した話(B くんは泣いていて話ができる状態ではないので、首を縦と横に振って意思表示をする A ちゃんからの話)によると、B くんは A ちゃんの持っている赤いバケツが欲しい、A ちゃんは自分で使いたいという状況のようでした。それぞれの気持ちをお互いに伝えましたが、思いは変わらず、B くんは泣き続けています。私が朝のご挨拶をしているすぐ横での出来事でしたので、そのまま見守ることにしました。たくさんの子どもたちが心配し様々な声掛けをしてきました。「順番に使ったら」「バケツ取りに行けばいいのに」と年中さん。年長さんは同じ赤いバケツをわざわざ届けてくれました。でも B くんは「A ちゃんの持っている赤いバケツ」がいいのです。泣き続ける B くん、状況は変わりません。園庭門を閉めた私は、頃合いと判断し、泣き続ける B くんに声をかけその場を一緒に離れました。A ちゃんも B くんもとことん自分の気持ちを変えず、いわゆる「解決」はしませんでした。でもその過程での他の子どもたちとの関わり、様々な想いの交わり、その時のそれぞれの心持ち、そんな幼稚園ならではの経験が成されました。そしてそれは子どもたちの育みに大切な意味のある過程でもありました。

後２週間余りの７月、子どもたちの様々な心を捉えつつ、充実した遊びの日々を過ごしたいと願います。共に見守っていただけますことよろしくお願いいたします。

園長　駿河　幸子